



H30.3.5 発行  
経営企画部 経営企画課  
04-2998-9027  
a9027@city.tokorozawa.lg.jp

なんだろう (?\_?) この写真…。  
ハイっ待ってましたぁ！コチラ  
「ところざわサクラタウン」の内  
観予定図です。本がたくさん並ん  
でますね。「角川ロックミュージ  
アム(仮称)」内の様子でしょうか。

下のイメージ図は、まるで映画  
の世界に入ったような感じで…  
ふぁぁ…夢が広がりますねえ。

夢が広がるといえばもう一つ。  
高校演劇応援プロジェクト『暗転  
エピローグ』の連載が、雑誌「電  
撃マオウ」で始まりました。声優  
の生田善子さんがご自身の経験  
をもとに原作を手がける青春高  
校演劇ストーリーで、作品の舞台  
は所沢、モデル校は三ヶ島にある  
県立芸術総合高校なんですよ★

…ふ～ん、で？ どんな話？と、  
気になった方。「電撃マオウ」や  
KADOKAWA のウェブコミックサ  
ービス「Comic Walker」で、ぜひ  
ご確認くださいませ (^\_^)

「ところざわサクラタウン」の内観予定図



### 「ところざわサクラタウン」の 地鎮祭が行われました

1/31 建設予定地にて  
約 250 名参列

今年 2 月から、いよいよ建設工事がスタートした  
「ところざわサクラタウン」。これに先立ち 1 月 31  
日 (水)、KADOKAWA 及び角川文化振興財団による  
「ところざわサクラタウン」の地鎮祭が東所沢和  
田の建設予定地で行われました。

また、同日、記者会見も行われ、KADOKAWA の  
松原代表取締役社長等から「ところざわサクラタ  
ウン」の敷地内に建設する「ブックオンデマンドを現  
実化する製造・物流拠点」や「ワンフロア約 3,000  
坪の KADOKAWA 新オフィスと働き方改革」、「角川  
文化振興財団が運営する各種文化事業」などにつ  
いて紹介があり、東所沢エリアの魅力的な地域づく  
りに貢献していくことが説明されました。

当日は、地元の皆様や議員の方々をはじめ、取引  
先の方々、KADOKAWA 及び角川文化振興財団、鹿  
島建設など「ところざわサクラタウン」の建築や運  
営の関係者約 250 人の参列がありました。



## 「第3回ところざわ文化創造会議」を ミュージズで開催

2/13 6:30pm~8:30pm  
所沢市民文化センター ミュージズ中ホール  
来場者 401名

「ところざわ文化創造会議」は、所沢から新たな文化の息吹を生み出そうとする企画で、平成29年2月、10月の開催に続き、今回3回目になります。

今回は「映画・アニメの舞台 魅力あるまちとは」と題し、アニメなどのコンテンツを活用した地域づくりをテーマとして、多彩なゲストを迎えトークセッションを行うとともに、VR(※)を用いて「ところざわサクラタウン」の施設を紹介しました。

また、秋草学園の協力で、同学園の高校ダンス部のオープニングアクト(演舞)や文化表現学科の学生さんが制作した短編映像「短大生がえらぶ! 所沢なんでもベスト5」が披露され、たくさんの人たちが所沢を想う気持ちが伝わる会議になりました。

※VR…バーチャルリアリティー(仮想現実)の略称  
コンピューターで作られた仮想的な世界を  
あたかも現実世界のように体感できる技術

皆さんは、アニメツーリズムという言葉をご存知でしょうか?簡単に言えば、アニメや漫画作品の舞台となった土地や建物などを訪れる旅行のことですが、聖地巡礼とも呼ばれたりして、海外からも多くのアニメファンが日本を訪れるようになりました。

そのような人々の「日本に点在するアニメの聖地を訪問したい」というニーズが急激な高まりを見せている中で、アニメ聖地の総本山をめざす「ところざわサクラタウン」が2年後にはオープンします。

国内外からのお客さんも招き入れ、文化のまち・所沢を世界へ向けて強力でアピールしていこうとするなか、所沢の魅力を様々な視点で語り合い、そのような魅力を発信していくには、今後どんな課題があるのか、何を準備していったらいいのか、地域プロモーションについて、市民の皆さんとともに考えるよい機会になったと思います。

J-COM 所沢  
イイとこTV  
キャスター  
仁科美咲さん  
(司会・進行)

秋草学園短期大学  
学長  
北野 大さん

所沢市  
教育委員会委員  
中川奈緒美さん

久喜市商工会  
鷲宮支所  
経営指導員  
松本真治さん

一般社団法人  
アニメツーリズム協会  
理事 兼 事務局長  
寺谷圭生さん

所沢出身 アニメ  
大好きタレント  
きやん  
喜屋武ちあきさん



### ＊担当のつばやき＊

高校演劇をテーマにしたマンガ制作の企画があって、原作者さんの意向もあり、多摩あたりでロケハン先を探しているとの旨の話が舞い込んできました。「ぜひとも所沢で!!」市内を一緒にあちこち下見して回り、作品の準備のお手伝いをさせていただきました。あれから1年余…『暗転エピソード』という作品の連載が始まりました。原作者で声優としても活躍する生田さんは、今後、アニメ化・舞台化もめざしたいと言ってくれています。ありがたきこと、この上ないです(T\_T)(ひ)

